

「コーディネーターとして勉強を
したいという思いがつのりました
」との感想も聞かれた今回の
研修の一端をお届けします！

第1回 教育支援コーディネーター・ミーティング（報告）

外部資源を“学習支援”につなげる発想法とは

～「教育課程」を踏まえたコーディネーターによる橋渡し～



各地域で活動する教育支援コーディネーターのスキルアップとネットワークづくりのために、研修会「教育支援コーディネーター・ミーティング」を開催しています。

平成25年度第1回の研修では、①事例としての「出前授業」を体験する、②国立教育政策研究所初等中等教育研究部統括研究官である山森先生に御助言をいただき、それを踏まえて、③コーディネーターとして、外部資源を学校にどのように活用するか（先生に提案するか）について考える、その発想の仕方を学ぶ機会として開催しました。

■開催日時、開催場所

平成25年7月4日（木） 14時～17時

国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟「第1ミーティングルーム」

■対象

教育支援コーディネーター（学校支援コーディネーター、地域コーディネーター）

区市町村学校支援地域本部事業担当者 等

■参加者

港区（2）、文京区（1）、江東区（2）、大田区（7）、世田谷区（2）、杉並区（8）、北区（5）、板橋区（3）、葛飾区（1）、江戸川区（1）

八王子市（1）、町田市（2）、小平市（3）、日野市（1）、東大和市（1）、多摩市（1）、稲城市（3）、その他（2）

計46人

■テーマ

外部資源を“学習支援”につなげる発想法とは

～「教育課程」を踏まえたコーディネーターによる橋渡し～

■プログラム内容

事例としての「出張授業」体験

【協力企業】東日本旅客鉄道株式会社

知久友太郎さん（東日本旅客鉄道株式会社経営企画部環境経営推進室）

「思考力の育成と教育課程」の観点からの助言

【助言者】山森光陽さん（国立教育政策研究所初等中等教育研究部統括研究官[教育心理学]）

グループワーク

企業の「出張授業」等外部資源を授業プランにつなげるワークショップ

□事例としての「出張授業」体験

コーディネーターには、学校支援活動のなかでも「学習支援」について、特に学校と外部資源との橋渡しとしての役割が期待されています。

今回の研修では、学校に提供されている「出前授業」をコーディネーターや学校支援ボランティア担当の教育行政担当者が実際に体験する機会を設けました。この研修意図を御理解いただき、模擬授業を引き受けていただいたのは、JR東日本です。この日は、経営企画部環境経営推進室の知久さんに実際に授業をやっていただきました。



「5年生のみなさんは、かつて『硬券』という厚手の切符があったのは知らないよね」

本来、小学校5年生を対象に、社会科の3時間授業を想定した、「鉄道と情報ネットワークの秘密を探れ！」と題して行われるプログラムを、60分のダイジェスト版で実施していただきました。

授業のハイライトは、4名一組で「指令員・運転士・駅員・お客様」の役割を分担し行うシミュレーション・ゲームです。大規模な地震が発生したという想定で、「運転士」や「駅員」が状況把握を行い、最終的には同じグループの「お客様」に説明を行いました。電車を安全に運行するために、「情報」はどのような仕組みで活用されているのか、参加者全員で、小学5年生になりきって体験しました。



「運転士」役の生徒は、地震発生後の状況を絵から読み取り記録します。



運転士と駅員による状況把握を、指令員に伝達し、最後はお客様に報告します。

参加者の感想より

- ・実社会に根差した本日の出張授業のようなものはよかった。
- ・出張授業を体験したことで、コーディネーター自身がコーディネーターしなければならない事柄を再確認できた。

□「思考力の育成と教育課程」の観点からの助言

駅員や車掌などのキャリアのあるJR東日本の知久さんの模擬授業を踏まえた上で、国立教育政策研究所の山森統括研究官に解説をしていただきました。そもそも外部資源が持つ教育的な価値、これからの社会において求められる必要とされる能力、それらを育むための義務教育段階での学習の位置づけ、学校の求めに応じたコーディネーターの役割などについて、ひとつひとつ事例を挙げながら解き明かしていただきました。



参加者の感想より

- ・企業等が行う出前講座は児童生徒にとって面白いと感じられるため、積極的に授業等に取り入れることがよいと思っていました。しかし、山森先生のお話を聞いて、単にイベントで終わるのでは意味はなく、学校も取り上げない。大切なことは児童生徒が問題解決を行いながら思考力を発揮できるようにすることという指摘は大変参考になりました。

□グループワーク 企業の「出張授業」等外部資源を授業プランにつなげるワークショップ



まず、模擬授業、山森先生のお話を受けて、「JR東日本」の模擬授業体験から心に残った事柄を書き出しました。その後、グループごとに山森さんの解説を踏まえ、教科・単元への位置づけを意識しながら、学校へ提案可能な授業案をめぐり、ディスカッションを行いました。